令和４年度　福井県立丸岡高等学校定時制　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	a 始業のベルとともに授業に入り、スムーズに学習に取り組めるよう努める。	ベル着を励行し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができたと回答した生徒は８５％→８８％と微増したが、目標の９０％を割り込んだ。 　教職員のベル着に対する自己評価は９１％→１００％に向上した。昨年度に比べて、ベル着の指導に意識をもって取り組んでいる。	全体として目標を達成できていない。「全く取り組むことができなかった」生徒が２名、「あまり取り組むことができなかった」生徒が６名いた。そういった生徒の影響でクラスの雰囲気が悪くならないよう引き続き教職員がベル着を念頭に置いて授業に臨むことが必要である。 　特に、タブレットを教室のキャビネットから取り出す準備や後始末に時間をとられて、授業の開始、終了のメリハリが失われることのないよう注意して取り組んでいく。
	b ICT機器を活用した教材・教え方の工夫や城東スタンダードの活用により、生徒主体のわかりやすい授業をするとともに、成績不振者に対して個別指導を行い、基礎学力の向上に努める。	最後まで授業に興味を持って参加できたと回答した生徒は、７９％→７８％と横ばいで、当初の目標にほぼ達している。一方で保護者の授業に対する満足度は９２％→８１％と大きく減少した。特に、２年生保護者の満足度が低下した。ICT機器（タブレット）を利用した学習が定着する一方で、プリント学習など生徒に基礎学力を定着させるための時間が削られているのではないかと考える。 　成績不振の生徒一人ひとりの状況にあわせて基礎学力の定着を図る指導ができたと考える割合と成績不振者に適切な指導をする割合はそれぞれ１００％と９１％で、ほぼ目標を達成できている。	一人1台のICT機器導入によって、生徒の学習への興味が増し、授業もますます工夫改善されている。以前に増して生徒の学力層・個性の幅が大きくなっているので、今後も引き続きクラスを２つに分け、少人数での指導が不可欠であり、生徒一人ひとりに合わせた授業をつくっていく必要がある。 　生徒が学習活動に対して感じる達成感や充足感を大切にしていく授業づくりが大切であり、日常の授業、教職員の研修、情報の共有など、ICT機器を効果的に活用するよう努力したい。
2 生徒支援	a　全教員が容儀検査や指導にあたることで、高校生らしい容儀の理解を深めていく。遅刻指導については、家庭との連携をより強めることで、全体の遅刻数減少を目指す。	２年前から、容儀規定遵守を働きかけることと家庭と連携しながら遅刻指導を行うことを１項目にまとめて実施している。全教員が共通理解を持ち、取り組むことができた。生徒は、８６％→８２％になり、目標を達成することが出来ず、服装、頭髪などの校則を守ろうとする意識の低下が見られた。また、遅刻に関しては多くの生徒が、時間を守ろうとする意識の向上が見られた。今後もこれまで同様に周知徹底を図ることが必要である。保護者においては、昨年度と同様に目標を達成することが出来た。今後もより一層協力を依頼していく必要があると考える。	教職員の回答は昨年度に引き続き１００％であった。全教員が容儀規定ならびに指導方針を十分理解し、それぞれの指導方法や意識に温度差が生じないようにより確実な共通認識を形成していく。保護者に対しても生徒らが生活習慣をよりよく改善できるよう今年度同様協力を要請し、電話や書簡などで生徒の現状を伝えるなど連絡体制の強化を図りたい。来年度も生徒の目標指数を達成できるように、生徒の意識向上に努めたい。
	b　生徒の不適切な言動に対して速やかにその場で指導する。また、定期的にアンケート、面談を実施する。	今年度も、いじめの発生を防ぐため、教職員は生徒の不適切な言動に対して速やかに指導し情報共有が重要であるということを共通理解し取り組むことができた。来年度も更なる情報共有が必要である。生徒についても他者の気持ちを理解し、不適切な言動を避けるという目標を達成できた（９３％）。さらに、保護者も子どもが努力している様子を家庭で確認でき、目標を大きく上回った（９２％）。今後も生徒の不適切な言動は許さないという共通理解を持ち指導を行っていく必要がある。	教職員の回答は、１００％であった。生徒保護者共に目標を大きく上回った。来年度も定期的にアンケートや面談を実施しながら、生徒の様子を把握し、気がかりなことがある場合は速やかに指導を行う。他者に対して不適切な言動を避けるとともに、他者の気持ちを理解し思いやりのある言動を心がけることを目標に、達成できるように工夫していきたい。保護者に対しても学校内での生徒の様子を保護者会などで積極的に伝え、更なる協力体制を構築していくことが必要である。
3 進路支援	a 進路に関する適性検査や講演会・ガイダンスを通して、自分の進路について考え、就労意欲が高まるよう働きかける。	コロナの影響で、昨年に引き続き中止になった講演会やガイダンスがあるが、適性検査・一般常識問題、職業別ガイダンス、職業講話、サマー求人企業説明会、ビジネススキルアップセミナーなどの行事は予定通り行うことができた。６月と１月の進路ガイダンスは業者の協力を得ながら講座を細分化し少人数で行い、生徒個々の希望にできる限り応えられるように実施した。３年目となる職業講話においては、今年も丸岡ロータリークラブの方を招聘し開催した。体験談を交えた熱のこもった話は好評で、生徒が進路に関心を持つ良い機会になっている。生徒の回答結果においてＡ＋Ｂの割合が一昨年から順に　６６％→７０％→７４％　と年々上昇している。	進路ガイダンスや講話については現在の方向性を維持しながら、体験学習など生徒が職業をより身近に感じ、進路を考える環境を整えていきたい。また、時期に応じた進路情報を、各学年ごとに与え、生徒の進路への意欲が高まるよう努めたい。また、担任の協力の下、適性検査や一般常識問題を定期的・段階的に実施しているが、昨年度から取り入れている社会人基礎力講座を含め、振り返りや復習を重視して、生徒が自分のレベルを把握させるとともに、その定着、向上を促進する。
	b ハローワークなど関係機関と連携しながら、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	就職については、コロナの影響で職場見学の日程の調整など苦慮することもあったが、概ね例年通りのスケジュールで進められた。卒業予定生徒に対して、進路目標に向けて必要な情報提供を行い、担任や産業人材コーディネーターの協力の下、適切な指導を行った。就職に関しては希望生徒はすべて企業の内定を取り、進学に関しては、推薦入試を利用して進路先を決定した。試験対策への取り組みは昨年度よりＡ＋Ｂの数値が減少しているが、卒業予定でない３年生の進路に対する意識の向上が課題である。	本校の生徒にとって、各科目、一般教養の基礎学力を定着させることが重要な目標である。その実現には、生徒自身が日頃の授業に真面目に取り組むことが何より大切であり，学習意欲の喚起が必要である。また、卒業予定の学年になって慌てることのないよう、普段の授業や学校生活を大切に過ごさせることに力点を置きたい。更に、一般常識問題の演習において復習に力を入れたい。これまで同様、全教職員による面接や作文指導を継続し、生徒の「読む」「聞く」「話す」力が向上するよう努めたい。
4 教育相談	生徒との日常的な関わりを大切にし、生徒の抱える問題の早期発見に努め、家庭、関係機関、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰとの連携により適切に問題解決を図る。	昨年度、目標を達成することができた「校内で心の悩みや問題を相談できる」生徒の割合が低下している（８３％→７１％）。新入生全員に対するＳＣ面談（前後期の２回）は継続しながら、２～４年生に対して、支援の手から外れがちな生徒がいないように学校全体で見守る体制作りを図りたい。学校に慣れ、新しい課題や問題に直面した生徒が自らＳＯＳを発信することは難しいため、支援に繋がることができるように情報共有を図りながら、ＳＳＷ、養護教諭、病院などとの連携し役割分担していくことが課題である。 ＪＯＹの時間を使用して、外部機関から講師を招聘し、多様性の理解、睡眠に関する講演を行った。専門家からの貴重な話を、自分たちの問題に置き換え、自己の生活に活かそうとする態度が見られた。	新入生が早く学校生活に適応でき、安心で安全な学級づくりを促すため、引き続きＳＣによる新入生面談を行いたい。来年度は、ＳＳＷや養護教諭、教育相談担当が分担して、全校生徒に広げられるよう計画し、問題の未然防止、早期発見に努めたい。 来年度も、良好な人間関係の構築を目指した授業（ＪＯＹ）を年間を通じ、計画的に実施していく。 外部機関と連携し、教職員に対する校内研修（教育相談、合理的配慮が必要な生徒、特別支援教育に関する課題、通級による指導に関する内容について）を企画・運営していく。
5 環境衛生	身の回りの整理整頓と校内の清掃活動が習慣化するように、適切な声かけを行う。また、自己の健康管理の意識向上に取り組む。	年々、清掃に真面目に取り組む生徒が増えている。自分の担当清掃場所に行かず、不真面目な態度を見かけることもあるが、教師の声かけを受けて、再度取り組む態度を見せている。教師の働きかけは十分になされており、また、清掃中に音楽を流すことで、自発的に清掃に向かっている。今年度は目標の８５％を達成し、９１％の生徒が取り組めていると自己評価している。しかし、入学者の減少により、各清掃場所の人数も減っているため、清掃場所が広範囲となり教師の目の行き届かない箇所も多々あった。教師一人の担当場所も広範囲になっているので、生徒一人ひとりがさらに自発的に清掃に向かうよう指導する必要がある。	適切な清掃分担になるよう、生徒の特性を担任と連携して確認し、清掃に向かうよう促す。また、一定の期間様子を見て、清掃分担を変更しても良いこととし、清掃監督の教師と連携をする。 生徒一人ひとりが自発的に清掃に向かうように、各清掃場所での作業内容を明確にし、清掃監督のチェック体制を強化する。 チェック表を作成し活用させたい。更なる改善策として、級友と生活環境を整えることをよいこととする意識の醸成に努める。感染症防止を引き続き徹底させ、意識の向上を図る。
6 読書指導	「ハートフルタイム」での読書活動や「ハートフルだより」を通して、読書に対する意欲や興味を育成する。	昨年度と同じく「生徒が読書活動に真剣に取り組めている」「生徒は読書活動に真剣に取り組めている」「生徒の語彙力・読解力が養われている」の３項目は目標指数を達成し、残る２項目は達成はできなかったが、どの項目も数値が横ばいである。「ハートフルタイム」は毎日の読書習慣をすべての生徒に定着させることが第一義であることに変わりはなく、担任の協力のもと継続していく中で、語彙力・読解力の育成を図ることが課題である。	「コミュニケーション能力」は生徒が社会に出たとき、とても大事な素養である。そのためにも語彙力・読解力を高めることは大切なことである。例えば、読書週間を設ける等「ハートフルタイム」での読書活動を工夫したり、読書意欲の喚起や啓発活動に取り組んだりしていきたい。また、全ての教職員と連携し、各教科の学習に関連した読書計画や質の高い図書の提供、授業時間の図書館の利用などの工夫を行い、豊かな言語力と感性を持つ生徒を育成していきたい。